

応用編 (実践編、座学編)

【実践編】

1 今月の収穫

今月の収穫はありません。

2 今月の種まき

春から初夏にかけての野菜 (大根、人参)

3月に続き、春野菜のほか、初夏にかけて収穫する野菜の種まきをします。関東南部では3月末に桜が咲き始め、4月上旬には散ってしまいます。花冷えという言葉あり、少し寒さを感じることもありますが、野菜の種まきはいよいよ本格的にスタートという季節です。4月は、大根、人参の種まきについてお話ししますが、その他の野菜もチャレンジしてみてください。

3月のおさらいです。播き方は大きく3つの方法があります。

1. 筋播き (すじまき) 一列に筋状に播く
2. 点播き (てんまき) 一か所に2~3粒ずつ、間を空けて播く
3. ばら播き 手にたくさん持って、まき散らすように播く

人参

人参は筋蒔きが基本です。5mmの深さに割りばしや指先で筋をつけ、人参の種をばらばら播いていきます。軽く土をかぶせて、手のひらで軽く押し固めてください。そのあとたっぷり水やりします。翌日雨が降るようでしたら、水やりは不要です。

その後、発芽するまでは乾かないように適度に水やりしてください。発芽するまで不織布やビニールをかけて、水分の蒸発を防ぐ方法もあります。

発芽すると、一直線に密集して育ってきます。背丈が5cmぐらいに成長したら、間引きします。最終的に10cmぐらい間隔が開くようにしましょう。

大根

基本は点播きです。30cm間隔で、深さは5mmほどが良いでしょう。指先で穴を開けて、種を2~3粒落とし、土をかぶせて、手のひらで押し固めます。大根の場合は、最初にたっぷり水を上げておけば、表面が少し乾いても水やりは不要です。この時期でしたら、2、3日に一度ぐらいのペースで、適度に水やりすれば良いでしょう。雨が適度に降る場合は、水やりしなくても大丈夫です。

発芽して、背丈が 15 cm ぐらいになったら、一番勢いが強そうな株を残して間引きします。

3 苗づくり

夏野菜の苗を作ります。ここでは、スイカ、カボチャを例に手順を説明します。ホームセンターで苗用のポットを購入します。直径 6~8 cm ほどの小さなもので十分です。庭や家庭菜園を借りている場合はその土を、プランターの場合は、プランターの土か、もしくは土が少ない場合はホームセンターで黒土を購入して、プランターの土と半々を混ぜた状態でポットに詰めましょう。(黒土のみだと、苗がうまく育たない可能性があります)

スイカ、カボチャの種は、とがっているほうを下に向けてると発芽しやすいと言われていますが、寝かせてポットに播いても問題ありません。(とがったほうを上に向けてると、うまく発芽しませんのでご注意ください)

まだ外が寒い場合は、日中は日の当たる場所に置き、夜は室内に移動してください。水は、乾かさず、やりすぎずに気をつけましょう。本葉が 3~4 枚になったら、畑かプランターに植え替えます。植え替え時期は、GW 過ぎが目安です。

東北地方から北にお住まいの方は、桜の咲くころに苗づくりを初めてください。



4 管理作業

草刈り（鎌の使い方）

いよいよ野菜以外の草が生えてくる時期です。適度な草刈りが必要になります。詳しくは動画でお伝えしますが、基本は、「野菜の光合成を邪魔する草は、根本で刈り取る」が基本です。畑に生える植物は、野菜でも野草でも、すべて重要な生き物です。ただし、私たちの食べる植物を優先させることが大切です。ここは微妙なところですが、「すべての生き物が大事だから野草も大事」というわけではありません。野菜と野草の共生微生物は種類が異なりますので、野菜との共生相手を優先的に繁殖させます。そのために、野菜のそばにある草については、引っこ抜くのではなく、根本を鎌かハサミで刈り取ります。

野菜とは離れたところにある野草については、邪魔にならなければ放っておきます。通路の邪魔になったり、野菜に覆いかぶさるように育ってくるようでしたら、根本で刈り取ります。

これは、今年の冬になるまで同じように対応していきます。

草刈り（刈払機の使い方）

「かりばらいき」と読みます。詳しくは動画で説明します。ガソリンを使うエンジン式のもの、充電電池でモーターを動かすものがあります。広い面積の畑を管理する場合、刈払機は必須の道具と言えます。ベルトで方にかけて操作しますが、女性の場合は、両肩にかけるベルトがありますので、それを使うと楽に操作できます。

ただ、刈払機を操作できる女性は少ないので、畑ではひときわ目を引く存在になるでしょう。とてもたくましい姿でほれほれしますので、ぜひ女性の方はチャレンジしてください。

（草刈りのアルバイトも全国にあります）

耕耘（ミニ耕耘機の使い方）

詳しくは動画で説明します。Halu 農法は高さ 40 cm、幅 120 cmの畝を造成します。とくに広い畑のばあいは、手作業で耕すのは大変ですので、耕耘機を使って耕すと効果的です。

ミニ耕耘機は 1.5~3 馬力ほどのエンジンを載せたものがお勧めです。ただ、女性一人の場合は、自力で持ち上げることができる重さのものを選んでください。1.5 馬力の耕耘機は約 20 kg、3 馬力のもの早く 30 kgが目安です。価格は 7~10 万円ほどです。

また、ミニ耕耘機を使う場合、スノーシュー（かんじき）を使います。これは、耕した後に足跡をつけないようにするために、通販で 2,000 円ほどで売られています。なくても良いのですが、使うときれいに耕耘できます。



▲写真は、ベルモント Belmont 14854 [PI-1493 スノーウォーク(ゴムバンド付)] : ヨドバシ.com より

【座学編】

「連作障害という事象」

農業や園芸を学び始めると、「連作障害」という言葉を聞きます。同じ作物を続けて栽培すると、病気や虫食いがひどくなるというものです。連作障害はなぜ起きるのか、その原因と対策を動画で詳しくお話しします。

基本的には、肥料を使う栽培に限って連作障害が発生します。逆に、肥料をまったく使わ

ない Halu 農法では、連作障害はありませんし、むしろ連作するほどに野菜の出来栄が良くなっていきます。

時間を追うごとに野菜の出来が良くなっていく楽しさをぜひ味わってください。

以上

講師・監修横内猛 農業技術研究所（農業生産法人）株式会社歩屋代表取締役。食と農ジャーナリスト。慶應義塾大学経済学部卒業後、全国紙記者を経て、「すべての人が幸せに暮らせるコミュニティのあり方」を求め、主に福祉や教育の現場にかかわる。（1986～2006年）さまざまな社会問題がいつそう深刻化していくなか、問題の根本に「食と農の歪み」があるという考えに至り、自ら画期的な農業技術である「自然農法」に注目し、新しい農場技術の研究を始める。（2007年～現在）独学で試行錯誤を重ね、自然農法の仕組みを考察し、2013年8月には、大玉スイカやマスクメロンの栽培に成功。2015年7月特許取得（方法特許第5770897号）この技術をさらに深め、新しい自然観、新しい社会の構築を提案しています。

農業技術研究所歩屋 http://ayumiya.co.jp/?page_id=52